

平成 23 年度 (社) 大気環境学会 事業報告

(平成 23 年 8 月 1 日～平成 24 年 7 月 31 日)

1. 会員の状況

種 別	平成 23 年 7 月 31 日	平成 24 年 7 月 31 日	差引増減 (△)
正 会 員	1,236 名	1,196 名	△ 40 名
学生会員	66 名	69 名	3 名
賛助会員	58 団体 (77 口)	55 団体 (71 口)	△ 3 団体

2. 年会報告

平成 23 年 9 月 14 日 (水)～16 日 (金) に九州支部の担当で、長崎市の長崎大学文教キャンパス環境科学部を中心とした会場において、第 52 回大気環境学会年会を開催した、参加者数は、正会員 366 名、学生会員 92 名、非会員 70 名であり、機器展出展／カタログ出展企業数は 20 社であった。

総会、受賞記念講演、特別講演、シンポジウム、特別集会、分科会、機器展が開催された。一般研究発表は、口頭発表 257 件、ポスター発表 94 件、あわせて 351 件であった。一般公開としたシンポジウムが福島原発事故関連であったためか、非会員の参加者が例年の 3 倍程度と多人数であった。また、機器展出展企業による技術セミナーを開催した。

3. 総会開催

平成 23 年 9 月 15 日 (木) 長崎大学文教キャンパス環境科学部大講堂にて平成 23 年度総会を開催した。

審議及び報告事項

- 1) 平成 22 年度事業報告及び収支決算報告
- 2) 平成 23 年度事業計画及び収支予算報告
- 3) 公益法人への移行
- 4) 大気環境学会定款の改訂
- 5) 第 53 回大気環境学会年会開催地
- 6) その他

4. 理事会等開催

(1) 常任理事会

定例の会議を次のように開催した。

平成 23 年 8 月 26 日 平成 23 年 12 月 19 日 平成 24 年 4 月 18 日 平成 24 年 6 月 22 日

大気環境学会会議室、ルノアール会議室

(2) 理事会

定例の会議を次のように開催した。

平成 23 年 9 月 13 日 (長崎市 セントヒル長崎 会議室)

(3) 支部長会

平成 23 年 9 月 13 日 (長崎市 セントヒル長崎 会議室)

5. 出版等

- (1) 大気環境学会誌 第 46 巻 5 号～第 47 巻 4 号 計 6 号を刊行した。なお、第 47 巻 1 号と第 2 号は学生・若手論文特集号とした。
- (2) 第 52 回大気環境学会年会講演要旨集 B5 版にて刊行した (年会事務局)。
- (3) 日韓大気環境学会合同英文誌 AJAE (Asian Journal of Atmospheric Environment) Vol.5 No.2, No.3, No.4, Vol.6 No.1, No.2, が刊行された。

6. 委員会開催

(1) 国際交流委員会

- 1) 平成 23 年 9 月 14 日 長崎大学の第 52 回年会にて第 11 回日中韓国際シンポジウムを開催した。
主題: Aerosol and Health Effect in East Asia (東アジアのエアロゾルと健康影響)
- 2) 平成 23 年 9 月 14 日 長崎大学の年会にて、AJAE 委員会と国際交流委員会の合同委員会を開催した。
- 3) 韓国大気環境学会と今後の日韓交流について協議を継続し、日韓合同シンポジウムを毎年秋の年会時に日韓交互に開催することで合意した。

4) AJAE 委員会は、日韓大気環境学会合同英文誌、AJAE の刊行について、投稿論文の管理、論文の査読等を行い、Vol.5 No.2, No.3, No.4, Vol.6 No.1, No.2、を韓国で印刷し刊行された。

(2) 編集委員会

- 1) 編集委員会を平成 23 年 9 月 16 日に、また、編集実務委員会を平成 23 年 11 月 24 日、平成 24 年 1 月 18 日、平成 24 年 3 月 21 日、平成 24 年 5 月 15 日、平成 24 年 7 月 27 日に開催して学会誌の編集企画を行い、合計 6 号（第 46 巻第 5 号～第 47 巻第 4 号）を刊行した。
- 2) 第 47 巻第 1、2 号を「学生・若手研究者の論文特集号」とし、原著 5 編、ノート 4 編を掲載した。
- 3) 入門講座（「大気モデル」（計 6 回のうち 1 回掲載：第 46 巻第 5 号）、「放射線」（計 4 回：第 46 巻第 5, 6 号、第 47 巻第 3, 4 号）、「化学物質のリスク評価と管理」（計 4 回のうち 3 回掲載：第 47 巻第 2～4 号））、市民講演会「放射性物質と環境影響」（第 46 巻第 6 号）、研究室・職場紹介（計 5 回）などの読み物を掲載した。
- 4) 科学技術振興機構（JST）の科学技術情報発信・流通総合システム（J-Stage）への掲載を進め、第 44 巻第 1 号～第 47 巻第 2 号を掲載した。これによって、JST 電子アーカイブ事業による学会誌のアーカイブ（対象は、「大気汚染研究」の第 1 巻から第 43 巻）と併せて、大気汚染研究第 1 巻第 1 号から、大気汚染学会誌を経て、大気環境学会誌第 47 巻第 2 号まで通して JST に掲載した。
- 5) 国際交流委員会と連携して、日韓大気環境学会合同英文誌（AJAE）の日本側編集委員会をサポートした。
- 6) 学会誌の中期的方向性に関して、①査読・編集機能の電子システム化、②学会誌の電子ジャーナル化、③コンテンツの充実、④AJAE との関係、⑤インパクトファクターの取得、⑥支出抑制・収入増加策について検討し、その結果をまとめて、次期編集委員会に引き継ぐ準備を進めた。

(3) 大気環境学会賞選考委員会

委員会：平成 24 年 6 月 14 日、大気環境学会賞の各賞の選考を行ない、学術賞 1 件を推薦した。
大気環境学誌論文賞の選考を行ない、学術部門 2 件、進歩部門 1 件、学生・若手部門 2 件を推薦した。
9 月 11 日の理事会で承認し、9 月 13 日の総会で表彰する。

(4) 大気環境学会論文賞選考分科会

委員会：平成 23 年 3 月 29 日、5 月 28 日
大気環境学会誌第 46 巻、及び AJAE 誌に掲載の論文について大気環境学会論文賞の選考を行い、論文賞として学術部門 2 件、進歩部門 1 件、学生・若手部門 2 件の 5 件を学会賞選考委員会に推薦した。

(5) 事業委員会

- 1) 50 周年記念事業として、以下の「大気環境学会アーカイブズ」事業を進めてきた。平成 23 年 9 月第 52 回年会会場の長崎大学において、アーカイブズ事業全体の展示を行った。
- 2) 年会講演要旨集のデータベース化。過去 52 年に渡る年会講演要旨集のデータベース化を進めた。多くのボランティアの協力を得て、PDF 化作業、書誌事項の入力作業をほぼ終了し、データベース検索に必要な機能を付与する作業を行った。最終的な整理を行い、DVD として完成させる旨作業を進めている。
- 3) フィルムライブラリー事業。多くの方々から写真や映像を提供いただき、第 52 回年会で展示した。これ以上の資料収集は困難であることから、「大気汚染フィルムライブラリー」の構築は中断することとした。
- 4) 委員会開催経過 第 1 回：平成 23 年 12 月 15 日、第 2 回：平成 24 年 7 月 30 日

(6) 倫理委員会

- 1) 第 13 回倫理委員会を開催した。第 52 回年会、平成 23 年 9 月 14 日 長崎大学 環境科学部。
委員会活動の方向性については、必要に応じて学会倫理綱領の見直しをはかっていき、社会的な動きに応じた適切な対処ができるようにする。
- 2) 最近、動物や人間を扱う研究では、実験開始時や論文投稿時に倫理審査を受けていることが前提となっているケースが多い。大気環境学会誌では、査読時の倫理審査実施について検討が必要。
倫理審査の要望については、要望があった場合には、必要に応じて受け付けるというスタンスを取ることとした。

(7) 広報委員会

- 1) 平成 23 年度においては、学会ホームページを改訂し、トップページのデザインなどを変えた。また、トップページの切り替えと共に、学会事務局や編集委員会などの協力により、ホームページの中身を改訂・更新した。その結果、大気環境学会のホームページは、以前に比べて、見やすく、使いやすいものとなった。
掲載依頼については、広報委員会の委員長を中心に掲載依頼された内容を速やかに判断し、掲載の可否を決定することとした。
- 2) 日本学術会議が主催する環境工学連合講演会が平成 23 年 4 月 14～15 日の 2 日間、「環境工学の力」という

テーマで開催され、伊豆田常任理事が「植物に対する越境大気汚染物質の影響」の講演タイトルで講演した。

3) 平成 23 年 9 月 14 日 長崎大学の第 52 回年会にて広報委員会を開催した。

(8) 公益法人検討委員会

平成 24 年 3 月 6 日に内閣府へ申請を行い、6 月 8 日に公益認定等委員会答申により公益社団法人への移行が認定され、8 月 1 日付けで「公益社団法人」として発足することとなった。事業は公益目的事業（大気環境に関する普及啓発事業）のみとし、新定款に基づき諸規定を整備するとともに、運営に余裕を持たせるため、事業年度を 7 月 1 日～翌年 6 月 30 日に変更した。なお、公益認定を受けるための制約から、支部については公益社団法人の「外部支部」扱いとした。

7. 支部報告

(1) 北海道・東北支部

平成 23 年 10 月 21 日 秋田県立大学にて、支部総会、支部学会、幹事会を併催。

支部総会 平成 22 年度支部活動報告及び決算報告、平成 23 年度支部活動方針及び予算案を諮り、承認を得た。また、次回の第 19 回支部総会は青森県を候補として開催することに決定した。

支部学会 総会と同会場にて支部学会を開催した。一般研究 14 題、ポスター発表 11 件、計 25 件の発表があった。また、福島大学の渡邊明教授より、「福島第一原子力発電所事故による放射性物質の大気中への放出・拡散」と題した特別講演があった。参加者は約 60 名であった。

幹事会 平成 22 年度支部活動報告及び決算報告、平成 23 年度支部活動方針及び予算案について審議、承認して総会に諮ることとした。また、次期開催県については青森県を候補とした。

(2) 関東支部

支部総会の開催 平成 24 年 6 月 8 日（金） ムーブ町屋（3 階）ムーブホール

①部長挨拶 ②支部、部会活動報告 ③会計報告 ④次年度活動計画

支部役員会 第 1 回（平成 23 年 10 月 26 日） 第 2 回（平成 24 年 1 月 18 日）

第 3 回（平成 24 年 3 月 28 日） 第 4 回（平成 23 年 5 月 16 日）

23 年度 関東支部講演会の開催 全国環境研協議会関東甲信静支部と共催

平成 24 年 6 月 8 日（金） ムーブ町屋 ムーブホール

テーマ：一改善されない光化学大気汚染問題に我々はどのように対応するか

関東支部ホームページの活性化と効率化

関東支部ホームページを学会本部ホームページと統合した。ホームページに関東支部講演会の講演要旨、役員会会議録、各部会で開催した講演会の案内を掲載。

関東支部会員のメールアドレスを収集して、連絡にかかる費用を圧縮した。収集率は約 74%で会員数 599 名メールアドレス未登録者は 157 名。

各部会の活動

健康影響、酸性雨、予測計画評価、植物影響部会、化学反応部会、粒子状物質部会、大気質調査の各部会で研究会、講演会、討論会等を開催した。

(3) 中部支部

評議員会 平成 23 年 11 月 22 日 ログスキー(名古屋市中村区名駅)

平成 23 年度中部支部総会へ提出する議題について協議

支部総会 平成 23 年 11 月 22 日 ウィンクあいち(名古屋市中村区名駅)

平成 22 年度経過報告、決算報告、会計監査報告

平成 23 年度決算見込、平成 24 年度事業計画・予算案

学術講演会 平成 23 年 11 月 22 日 ウィンクあいち(名古屋市中村区名駅)

特別講演 「粒子状物質の成分組成が健康に及ぼす影響 疫学研究から何がわかるか？」

上田 佳代 (国立環境研究所)

一般発表 7 題、

(4) 近畿支部

近畿支部総会・シンポジウム 平成 23 年 9 月 6 日 キャンパスポート大阪

議事：平成 22 年度事業報告・収支決算報告、部会報告、平成 23 年度事業計画・予算案

シンポジウムテーマ：「放射性物質とその健康影響」

理事会・運営委員会

第 1 回理事会、運営幹事会 平成 23 年 9 月 6 日 キャンパスポート大阪

議 題 公益法人等への移行について、会員増対策・支部活性化対策、平成 22 年度事業報告・収支決算報告、部会報告、平成 23 年度事業計画・予算案、部会活動の今後について他

部会講演会・セミナー

気象拡散部会 平成 24 年 5 月 25 日(火) 講演会「滋賀県大気シミュレーションモデルによる放射性物質の拡散予測」他 2 題

反応と測定部会 平成 24 年 1 月 13 日 一般発表 15 題、特別講演 1 題

人体影響部会 平成 24 年 3 月 13 日 講演会「環境中亜硝酸の生体影響を考える」

エアロゾル部会 平成 24 年 3 月 23 日(金) 講演会「PM2.5 の高濃度事例研究」

(5) 中国・四国支部

幹事会 平成 24 年 1 月 29 日 広島県立総合体育館小会議室

平成 23 年度の活動計画について

総 会 平成 24 年 1 月 29 日 広島県立総合体育館小会議室

平成 23 年度の活動として、講演会・発表会を全国環境研支部会議の開催地に合わせ愛媛と広島で開催する。

講演会 平成 24 年 1 月 29 日 広島県立総合体育館小会議室 14 演題及び総合討論

(6) 九州支部

役員会 平成 24 年 1 月 27 日 アクロス福岡

平成 23 年度事業実施報告、収支決算及び平成 24 年度事業計画（案）、予算（案）について

支部総会 平成 24 年 1 月 27 日 アクロス福岡

平成 23 年度事業実施報告、収支決算及び平成 24 年度事業計画（案）、予算（案）について

支部研究発表会 平成 24 年 1 月 27 日 アクロス福岡

特別講演 国立保健医療科学院，生活環境研究部長 樺田尚樹

「放射線・放射能と健康影響」

一般講演 8 演題の研究発表予定（室内環境：4 演題，大気環境：4 演題）

8. 分科会報告

(1) 酸性雨分科会

年会分科会 平成 23 年 9 月 14 日 長崎大学（A会場）

テーマ 日本各地の酸性霧の化学特性 4 題

東京講演会 平成 24 年 3 月 2 日 法政大学小金井キャンパス 東館 105 号室

テーマ：放射能測定、越境大気汚染研究と若き研究者の育成 講演：8 題

大阪講演会 平成 24 年 7 月 26 日 名古屋大学 環境総合館 3 階講義室 1

テーマ：災害と大気汚染 講演：3 題

メールニュースの発行 昨年度報告以降、282～301 号まで 20 回発行（メール会員 188 人）

ホームページによる情報発信 昨年度報告以降、酸性雨分科会ホームページを 5 回更新

(2) 環境大気モニタリング分科会

年会分科会 平成 23 年 9 月 14 日 年第 52 回大気環境学会年会 長崎大学

テーマ名：環境大気モニタリングに関する最近の話題

研究会 平成 24 年 3 月 9 日 東京都立産業貿易センター

テーマ名：大気モニタリングに係わる最近の話題

幹事会 平成 24 年 3 月 9 日 浜松町 ニューピア竹芝サウスタワー

(3) 都市大気環境モデリング分科会

第 52 回大気環境学会年会分科会 B 会場 平成 23 年 9 月 14 日

テーマ「PM2.5 モデリングの現況と課題」開催。

モデル相互比較ミーティング 平成 23 年 11 月 11 日

モデル相互比較ミーティング 平成 24 年 2 月 28 日

モデル相互比較ミーティング 平成 24 年 5 月 22 日

(4) 臭気環境分科会

年会分科会の開催 平成 23 年 9 月 14 日 テーマ「臭気成分と脱臭微生物の分析と評価」

東日本大震災の被災地における臭気調査の実施

東日本大震災による津波の被災地に住む人々の生活の質の向上に資するために、被災地における臭気環境を的確に評価し、今後の対策のための科学的資料を収集する。

第1回調査：平成23年6月30日(木)～7月2日(土)

第2回調査：平成23年11月16日(水)～17日(木)

宮城県石巻市および気仙沼市、岩手県大船渡市など。官能評価及び発生源の臭気指数と臭気排出強度について

(5) 自動車環境分科会

第52回大気環境学会年会分科会 平成23年9月14日

テーマ 「地域全域での環境基準の達成に向けて、どうなる？自動車NOx・PM法」

(6) 室内環境分科会

第52回大気環境学会年会分科会 平成23年9月14日

テーマ 「室内測定の現状と課題」

(7) 都市大気エアロゾル分科会

第52回大気環境学会年会 平成23年9月14日 長崎大学環境科学部 102教室

テーマ PM_{2.5}に関する最近の動きー常時監視としての成分分析ー

学術講演会 (大気環境学会中部支部・大気環境学会都市大気エアロゾル分科会共催講演会)

平成23年11月22日 ウィンクあいち (10階1006号室)

特別講演：粒子状物質の成分組成が健康に及ぼす影響：疫学研究から何がわかるか？
他7演題

学術講演会 (関東地方大気環境対策推進連絡会浮遊粒子状物質調査会議主催、大気環境学会関東支部粒子状物質部会・大気環境学会都市大気エアロゾル分科会 共催講演会)

平成24年3月15日 大宮ソニックシティビル 6階603会議室

(8) 植物分科会

第52回大気環境学会年会分科会 平成23年9月14日 長崎大学環境科学部

テーマ：大気汚染の植物影響研究の歴史を振り返る

大気汚染物質の植物におよぼす長期慢性影響評価ー実験と現場との境界領域から振り返る

講演会 関東支部植物影響部会との共催で開催 平成23年12月2日

東京都環境科学研究所大会議室

講演会 静岡県立大学環境科学研究所との共催で開催 平成24年6月30日 静岡県立大学看護学部

テーマ：大気環境と植物ー植物に迫る気候変動と大気汚染の脅威ー

世話人会議 平成23年9月14日 長崎大学環境科学部 (12月の講演会打合せ等)

平成23年12月2日 東京都環境科学研究所 (6月の講演会打合せ等)

平成24年4月19日 電力中央研究所大手町地区 (6月の講演会、分科会集会打合せ等)

(9) 健康影響分科会

第52回大気環境学会年会分科会 平成23年9月14日 長崎大学環境科学部

テーマ：災害後の廃棄物や堆積物に伴う粉じんの健康影響

講演会 関東支部健康部会と共催でセミナーを開催

テーマ：環境ナノ粒子の生体影響